

セルフ・ネグレクト 支援最前線

セルフ・ネグレクトは、単なる支援の拒否ではなく「助けを求める力の欠如」である。孤立死事例の約 8 割に認められ、認知症や社会的孤立を背景に、誰もが陥るリスクをはらむ。この状態を放置することは“行政によるネグレクト”であり、保健師を中心とした介入の重要性は極めて高い。本特集では、近年新たに開発されたアセスメントツールや介入ツールの活用法など最新の知見を紹介し、複雑化する事例への早期発見・支援・予防に向けた新たな視座を提示したい。

-
- セルフ・ネグレクトの概念の変化と、保健師に期待すること
 - セルフ・ネグレクトのアセスメントツールの活用方法
 - 地域アセスメントツールの活用について
 - 介入のための支援ツールの活用について
 - 重層的支援体制整備事業での埼玉県川口市の取り組み
 - 「不良な生活環境」の解消に向けた京都市の取り組みと専任保健師の役割